

わがまちの 「ちよつといい話」

NO. 38

「道徳のまち笠松」推進会議
(笠松町教育文化課)

○あいさつの輪を！

十二月七日(火)から十日(金)の四日間、笠松中学校生徒会が「あいさつキャンペーン」を行なった。そのねらいは、あいさつの輪を校内から地域の

に広げることである。今回は校区内の三小学校と笠松駅・西笠松駅にでかけ、あいさつ運動を行うことにした。この話を聞いた「道徳のまち笠松推進会議」は、あいさつを地域に広げようとする中学生の心に感じ入り、青少年育成町民会議やPTAにも呼びかけ、一緒に取り組み支援することにした。

○母校で、弟や妹を迎える

午前七時四十分から八時まで校区内の三小学校では、昇降口にピンク色の手袋をはめ、「地域あいさつ運動」のたすきをかけた中学生が、登校してくる

笠中生徒会「あいさつ運動」 校内から地域へ！

小学生に「おはようございます」と声をかける。小学生もそれに応える。かさまるくん・かさまるちゃんが参加した日には、にぎやかさが一段と増す。小学校の児童会でも「あいさつゲート」をたてたり、「あいさつ運動」のタスキもかけたりして、あいさつしやすい雰囲気づくりに取り組んだ。

○駅前でもひと声を！

十二月十日、取り組み最終日には、笠松駅と西笠松駅で一般の通勤・通学の方々に向けたあいさつ運動を行なった。通学する先輩達も取り組みの趣旨を知り、「頑張って」と声をかけ、気持よくあいさつしてくれた。

町長さんや教育長さんはじめ教育委員会や青少年育成町民会議の方々も支援いただいた。あいさつの輪はまだまだ小さいが、町に新たな動きが生まれた。

○あいさつの心を！

「道徳のまち笠松」では、心のつながりが広まり深まる温かい町づくりをめざしている。同推進会議では、あいさつの意義を理解し、生活の中で習慣化できるよう啓発資料や「あいさつ絵本」の制作を検討している。今回の中学生の取り組みはこうした町づくりと深くかわるものである。心を育むあいさつの波が小中学生も大人も含む町民全体の取り組みにならないものだろうか。



笠松駅前であいさつ運動に
取り組む中学生